



2025年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年8月8日
東

上場会社名 株式会社エスユーエス 上場取引所
コード番号 6554 URL <https://www.sus-g.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 公男
問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼最高財務責任者 (氏名) 浅田 剛史 (TEL) 075-229-7400
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年9月期第3四半期の連結業績(2024年10月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期第3四半期	11,087	15.7	973	69.2	1,012	67.2	674	54.4
2024年9月期第3四半期	9,584	13.0	575	10.7	605	12.9	436	27.8

(注) 包括利益 2025年9月期第3四半期 672百万円(55.9%) 2024年9月期第3四半期 431百万円(26.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年9月期第3四半期	76.22	75.00
2024年9月期第3四半期	48.92	47.92

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年9月期第3四半期	6,856	4,084	58.1
2024年9月期	5,650	3,586	63.1

(参考) 自己資本 2025年9月期第3四半期 3,982百万円 2024年9月期 3,568百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年9月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2025年9月期	—	0.00	—		
2025年9月期(予想)				35.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2024年9月期期末配当金の内訳 普通配当 25円00銭 記念配当 5円00銭(創業25周年記念配当)

3. 2025年9月期の連結業績予想(2024年10月1日～2025年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,800	12.0	1,050	26.7	1,080	25.4	723	20.0	81.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年9月期3Q	9,037,600株	2024年9月期	9,037,600株
② 期末自己株式数	2025年9月期3Q	173,984株	2024年9月期	215,584株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年9月期3Q	8,849,527株	2024年9月期3Q	8,932,983株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に景気が緩やかに回復し、消費者マインドが弱含んでいるものの個人消費に持ち直しの傾向が見られます。しかし、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっていることや、物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響、金融資本市場の変動等、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループのソリューション事業においては、エンジニア派遣、製造請負、IT請負その他を含めて、全ての業務で受注が増加いたしました。一方で、コンサルティング事業においては、収益基盤の再構築による利益率の改善に向けた取り組みにより売上高は減少いたしました。また、AR/VR事業においても、AI領域では受注が堅調に推移したものの、AR/VR領域では本格導入を見据えた実現性検証フェーズの案件が中心となり、一時的に案件単価が低下した影響等により、売上高は減少いたしました。販売費及び一般管理費においては、エンジニアの採用関連費用や、福利厚生費を含む人件費等が増加しましたが、ソリューション事業及びコンサルティング事業で売上総利益率が改善したことにより、グループ全体の営業利益は大きく増加いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高11,087百万円（対前年同期比15.7%増）、営業利益973百万円（対前年同期比69.2%増）、経常利益1,012百万円（対前年同期比67.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益674百万円（対前年同期比54.4%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① ソリューション事業

派遣業務は、主要取引先である国内製造業及びIT関連企業におきまして、慢性的なエンジニア不足の状況は変わらず、エンジニア需要が堅調に推移いたしました。このような状況の中、継続的にエンジニア教育等による高付加価値化に取組み、その結果、派遣単価が前年同期比で3.7%上昇いたしました。また、前年に迫る280名の新卒エンジニアを迎え入れ、経験者採用を強化したこと等により在籍エンジニア数が増加し、さらに稼働の早期化による稼働人数の増加によって、第3四半期連結累計期間の稼働率も前年同期比で1.7ポイント向上いたしました。これらの取り組みが作用し、売上高の増加につながりました。

請負業務は、IT請負においてリーダー人材の育成に注力し、プロジェクト単位及びチームでの受注体制を強化したこと、製造請負において顧客需要が回復基調にあること等から、当第3四半期連結累計期間の売上高はそれぞれ増加いたしました。

エンジニアの積極採用による採用広告費や福利厚生費を含む人件費等の増加により、販売費及び一般管理費は増加しましたが、売上高の伸長により吸収し、セグメント利益は増加いたしました。

これらの結果、ソリューション事業の売上高は10,053百万円（対前年同期比18.2%増）、セグメント利益は881百万円（対前年同期比82.7%増）となり、2025年6月末時点の在籍エンジニア数は2,174人、当第3四半期連結累計期間の稼働率は94.7%となりました。

② コンサルティング事業

ITコンサルティングサービス市場は、SAPをはじめとした既存の大規模基幹システムにおいてIT基盤の統合・再構築に関連する需要が高まっております。SAPの導入においては、業務手順をシステム標準機能に合わせる Fit To Standard の思想が取り入れられる案件が増えており、求められるサービスの形が変化し、そこに新しい商機が生まれております。

このような状況の中、市場ニーズの変化への対応、また収益基盤の再構築による利益率の改善に向けた取り組みとして、自社ITコンサルタントの採用、育成環境の整備を推進したことから、前年同期比では減収となった一方、利益率の上昇により増益となりました。中長期的な視点で、自社ITコンサルタントの確保に向けた体制整備を継続するとともに、当社中核事業であるソリューション事業と連携した営業力強化、相互発展をより意識したパートナー企業との連携によるチーム体制での課題解決力強化に取り組み、収益性向上に努めてまいります。

これらの結果、コンサルティング事業の売上高は696百万円（対前年同期比2.6%減）、セグメント利益は92百万円（対前年同期比34.6%増）となりました。

③ AR/VR事業

AR（拡張現実）、VR（仮想現実）、MR（複合現実）、AI（人工知能）、メタバースといった最先端IT市場では、多種多様な商品やサービスが需要・供給ともに拡大しており、特に、人手不足を背景としたDX推進が需要喚起を後押ししております。このような状況下で、当社はデバイスの進化や市場拡大に対応し、大型展示会への出展、ニュースリリース、提案型の企画営業、ダイレクトメール配信といった発信型の営業活動を組み合わせて展開することにより、特にAR、VR、MRにニーズを持つ顧客からの引き合いが顕著に増加しております。既存顧客からの継続的な受注に加え、複数の顧客から類似したニーズを得るケースが増えており、今後はこれらの共通課題を解決するサービスやパッケージの開発も視野に入れております。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続き産業向けのAR/VRシミュレーターやメタバース、教育機関向けのメタバースを活用した教育システム、AIを活用した業務効率化システムの開発等を受注いたしました。大手メーカーをはじめとする既存の派遣先からは、最先端技術の活用に積極的な顧客からの大型案件を継続的に獲得しております。

当第3四半期連結累計期間は、本格導入を見据えた実現性検証フェーズの案件が中心だったため、一時的に案件単価が低下し、受注の足がかりとなる大型展示会への出展費用が増加したこともあり、セグメント全体では前年同期比で減収減益となりました。しかしながら、AI領域は堅調に推移しており、AR/VR領域でも費用対効果を重視した明確な目的を持つ顧客からの案件が着実に増加しております。VR体験会やAIデザイナー育成講座の開催を通じて潜在的な需要を掘り起こし、将来的には、実現性検証フェーズの案件を、高単価な継続案件へ発展させることを見込んでおります。

AR/VR事業は、子会社である株式会社クロスリアリティが提供する、人材開発支援助成金を活用したAR/VR専門家育成プログラムなどのリスクリング支援や、最先端技術分野でのキャリア形成支援を通じて、優秀なエンジニア採用にも好影響を与えております。本年4月には、AI技術の基礎から応用までを学び、実務に活かせるスキル習得を目的とした新卒エンジニア向けの生成AI研修を実施いたしました。この事業は、当社グループの最先端技術分野をブランディングするうえで重要な役割を担うと認識しております。現在、当社の強みである企画提案力のさらなる強化に向けた体制整備を進めております。今後も、この企画提案力を活かし、顧客ニーズを具体化することにより、売上拡大に努めてまいります。

これらの結果、AR/VR事業の売上高は265百万円（対前年同期比13.4%減）、セグメント損失は9百万円（前年同期は39百万円の利益）となりました。

④ その他

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく特例子会社である株式会社ストーンフリーの売上高は、就労移行支援事業の利用者通所率の向上、就労定着支援事業の利用者の増加により、前年同期比で増加いたしました。また、再生医療導入支援事業を行うプライムロード株式会社は、再生医療コンサルティングサービスの受注が堅調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は71百万円（対前年同期比31.6%増）、セグメント利益は8百万円（前年同期は15百万円の損失）となりました。

（2）当四半期連結累計期間の財政状態の概況

① 資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は6,856百万円となり、前連結会計年度末より1,205百万円の増加となりました。流動資産合計は5,655百万円となり、前連結会計年度末より874百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金が827百万円増加したことによるものであります。固定資産合計は1,201百万円となり、前連結会計年度末より331百万円の増加となりました。これは主に、投資その他の資産が297百万円増加したことによるものであります。

② 負債の状況

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は2,771百万円となり、前連結会計年度末より706百万円の増加となりました。流動負債合計は2,743百万円となり、前連結会計年度末より707百万円の増加となりました。これは主に賞与引当金が407百万円減少した一方、未払費用が972百万円増加、未払法人税等が164百万円増加したことによるものであります。固定負債合計は前連結会計年度末とほぼ同額の28百万円となりました。

③ 純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は4,084百万円となり、前連結会計年度末より498百万円の増加となりました。これは主に剰余金の配当により264百万円減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益674百万円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年9月期の連結業績予想につきましては、2024年11月14日に公表いたしました予想値から変更はありません。

なお、当社グループは海外顧客や特定顧客に過度に依存しない事業構造を構築していることにより、米国関税政策による影響は現時点では限定的であると考えております。

今後も経営環境及び受注状況等を注視し、業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,812	3,639
売掛金	1,852	1,848
仕掛品	13	58
その他	102	110
貸倒引当金	△0	△2
流動資産合計	4,780	5,655
固定資産		
有形固定資産	302	339
無形固定資産	33	30
投資その他の資産	533	831
固定資産合計	870	1,201
資産合計	5,650	6,856
負債の部		
流動負債		
未払金	944	943
未払法人税等	210	374
未払費用	109	1,081
賞与引当金	407	-
役員賞与引当金	10	-
その他	353	343
流動負債合計	2,035	2,743
固定負債		
資産除去債務	23	23
その他	5	4
固定負債合計	29	28
負債合計	2,064	2,771
純資産の部		
株主資本		
資本金	436	436
資本剰余金	514	487
利益剰余金	2,782	3,192
自己株式	△165	△133
株主資本合計	3,568	3,982
非支配株主持分	18	102
純資産合計	3,586	4,084
負債純資産合計	5,650	6,856

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)
売上高	9,584	11,087
売上原価	7,158	8,146
売上総利益	2,426	2,941
販売費及び一般管理費	1,851	1,967
営業利益	575	973
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	0	0
助成金収入	35	37
その他	1	0
営業外収益合計	36	39
営業外費用		
支払利息	0	0
寄付金	5	-
その他	0	0
営業外費用合計	6	0
経常利益	605	1,012
税金等調整前四半期純利益	605	1,012
法人税、住民税及び事業税	327	486
法人税等還付税額	△29	-
法人税等調整額	△123	△146
法人税等合計	174	340
四半期純利益	431	672
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△5	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益	436	674

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	431	672
四半期包括利益	431	672
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	436	674
非支配株主に係る四半期包括利益	△5	△1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	コンサル ティング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,507	715	306	9,529	54	9,584
計	8,507	715	306	9,529	54	9,584
セグメント利益又は損失(△)	482	68	39	590	△15	575

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	コンサル ティング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,053	696	265	11,015	71	11,087
計	10,053	696	265	11,015	71	11,087
セグメント利益又は損失(△)	881	92	△9	965	8	973

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	68百万円	62百万円